

蜷塚遺跡通信

No. 1

浜松市文化財課・浜松市博物館 2025年8月8日

蜷塚遺跡の発掘調査（9次調査）と現地説明会を行います！

蜷塚遺跡の9次調査を9月2日から約1週間の予定で実施します。9次調査では、第1貝塚の範囲や水場が想定できる谷部分の様子を明らかにするための発掘調査を行います。

9月7日（日）の午前10時と午後1時30分の2回、発掘調査成果を紹介する現地説明会を開催します。



蜷塚遺跡について

蜷塚遺跡は、縄文時代後期から晩期（約4000年前～3000年前）の集落のあとです。集落を取り囲むように4つの貝塚が存在します。建物や墓、土器や石器・骨角器、貝殻や魚・動物の骨から総合的に当時の生活の一端をうかがい知ることができます。

第1貝塚の範囲と、谷の利用を調査！！

第1貝塚 2024年8月に実施した8次調査により、従来の想定よりも西側へと第1貝塚が広がっていることが明らかになりました。また、8次調査では貝塚の一部をふるいがけし、詳細に調査したことによって、ウナギの骨などの微細な骨や貝などを確認することができました。これまでの発掘調査に加え、現在の調査水準に沿った手法を用いることによって、蜆塚に暮らした縄文人たちの生活の様子がより明らかになりつつあります。9次調査は、第1貝塚の西端や北端の把握を主な目的として実施します。

南側の谷 集落の南側にある谷は、縄文時代に木の実の加工や飲み水の確保などに利用された「水場」の可能性があります。8次調査では、谷の斜面を覆う土砂の中から縄文土器の破片が多数出土し、縄文時代の谷地形が良好な状態で残されていることが判明しました。9次調査では8次調査区を谷底に向けて掘り、より詳細な調査を行います。



第1貝塚の現在の状況



8次調査における
集落南側の谷の調査状況



8次調査で見つかったウナギの椎骨